

基礎配属

教育担当者

基礎医学講座、人体病理学講座、先端医学研究所研究部および共同利用施設の教員。

I 一般学習目標

基礎医学教室に所属して、幅広い科学的視野と洞察力を身につけるとともに知的向上心を養うために、医学を支える基礎的研究の進め方を理解する。

II 個別学習目標

- ① 医師としての研究マインドの涵養
 - ② 臨床能力に繋がる基礎医学知識及び問題解決能力の獲得
 - ③ 基礎医学研究者を目指す学生の育成
- 上記の目標を達成するために、教室毎にテーマを提示する。

III 教育内容

研究テーマと担当教室は別途掲示する。
V～VI期

IV 学習および教育方法

数名のグループに分れて、テーマを選択した上で基礎医学講座（解剖学(1)(2)、生理学(1)(2)、生化学、分子遺伝学、薬理学、病理学、微生物学、衛生学、公衆衛生学、法医学）、人体病理学講座、先端医学研究所研究部（生体調節機構、遺伝子制御学、分子病態解析）及び共同利用施設（RI実験施設、中央研究機器施設、動物実験施設）に所属し、実習、セミナー、論文読解など総合的に行われる授業を受ける。また、希望者の中から選抜された数人の学生は、国際交流センターからの支援を受けて、米国、香港、中国、タイ等に短期留学して研究指導を受けることもできる。その他、大学が認めた国内外の研究機関においても、同様の研究指導を受けることができる。

○ 配属先の決定

- 1 原則、各教室の受入数は所属する教員数を基に決定する。（教員1人あたり学生2～3名）
- 2 配属の際は、学年成績が優先される。
- 3 学部並行型のMD-Ph.Dコースの学生について、大学院準備過程の担当指導教官の教室を第一希望とした場合は、優先的に配属させる。

具体的な配属方法は、別途通知する

V 評価の方法

各教室の評価方法は別表のとおり。

到達度評価として基礎配属報告会を開催する。教員・学生による評価に基づき優秀者を決定し表彰する。尚、基礎配属開始にあたり、研究倫理教育（eAPRIN など）を修了しておく必要がある。

基礎配属の履修は、原則実習扱いとする。（全て出席受講することを原則とする。）

正当な理由による届けが無く欠席した場合は必要な単位を与えない。

なお、欠席の具体的な取り扱いについては、各所属が提示する規則に従うこと。

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、変更する可能性あり。

VI 推薦する参考書

テーマ毎に提示する。

(別表) 評価の方法について

教室名	評価方法
解剖学 1	最終成績は学習態度（40%）、技術の習熟度（40%）、報告書（20%）の合計に出席率を乗じたもので評価し、60点以上を合格とする。
解剖学 2	学習態度（出席、コミュニケーション能力、情報収集・分析・論文読解能力、プレゼンテーション能力、論理的思考・他の意見に対する建設的批評等）、実技の習熟度、および研究成果の報告（報告書の作成、学会・報告会での発表等）を総合的に判断し、評価を行う。
生理学 1	自主的に研究に参加する姿勢を重視する。抄読会、討論会での発言内容、積極性により可否判定を行う。1回以上の無断欠席、および2回以上の遅刻は不合格とする。
生理学 2	出席態度を重視する。無断欠席・無断遅刻等の多い学生は、単位認定しない。自らアイデアを考え、自ら論文（時には英語論文）を調べ、自ら熱心に実験していく姿勢を評価する。
生化学	最終成績は、出席点(40%)、学習態度、実技の習熟度(40%)、報告書(20%)の総合点で評価し、60点以上を合格とする。配属期間の出席が2/3に満たないものや無断欠席は単位を与えない。
分子遺伝学	出席と積極性を重視し、学習態度、実技の習熟度、プレゼンテーション力および報告書によって判断する。
薬理学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。配属期間中の無断欠席者には単位を付与しない。
病理学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。配属期間中の出席が2/3に満たない者や無断欠席は単位を付与しない。
微生物学	研究に取り組む自発的、自律的な態度を重視する。学習態度(50%)や実技の習熟度(25%)、研究結果報告会などでのプレゼンテーション力等(25%)を総合的に評価する。無断欠席をした場合は不合格とする。
衛生学	積極的・自発的な姿勢および態度40%、出席40%、成果発表会および報告書20%で評価する。出席率が2/3に満たないものには単位を与えない。
公衆衛生学	研究に臨む姿勢、態度、期間中の出席を50%、報告会の発表を30%、報告書を20%として評価を行う。なお、出席率が2/3に満たないものには単位を与えない。
公衆衛生学 (健康管理センター)	期間中の出席状況と積極的・自発的に研究に臨む姿勢を重視する。出席及び態度（50%）、研究技能習熟度（25%）、研究結果発表会と報告書（25%）で評価する。
法医学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
人体病理学	与えたテーマへの取り組みに対する、自主的、自立的、自律的な態度を重視する。行うべき事項（研究、抄読会など）に対する学習態度(50%)、出席(30%)、研究発表会および報告書の内容(20%)の総合点で評価する。なお無断欠席をした場合は不合格とする。
生体調節機構	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
遺伝子制御学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
分子病態解析	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
RI 実験施設	出席40%、実験への参加状況20%、研究報告書作成40%で評価する。なお、出席が2/3に満たない場合（病欠、不責事由等は除く）は不合格とする。
中央研究機器施設	出席40%、学習態度20%、実技の習熟度10%、報告書30%で評価する。
動物実験施設	真摯な学習態度を重視する（80%）。習熟度（10%）、報告書（10%）もある程度加味する。出席率2/3に満たないものは不合格とする。